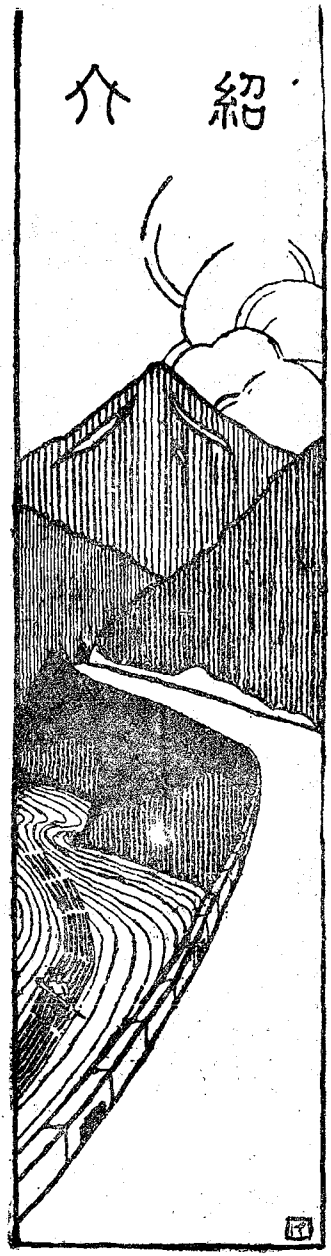


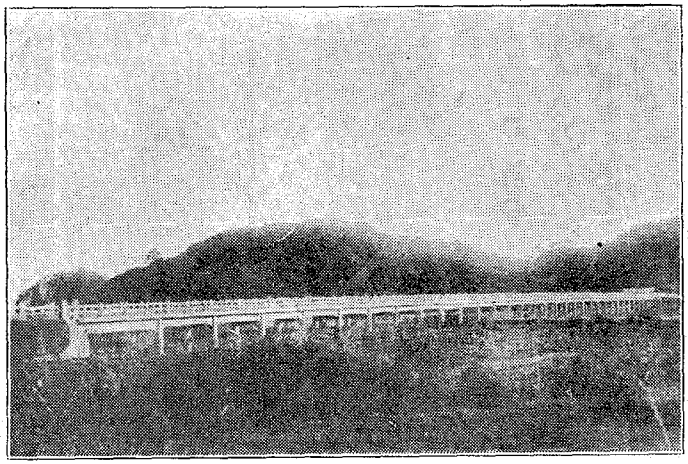
◎海邊川橋架橋概要

德島縣報告主任

一　沿革

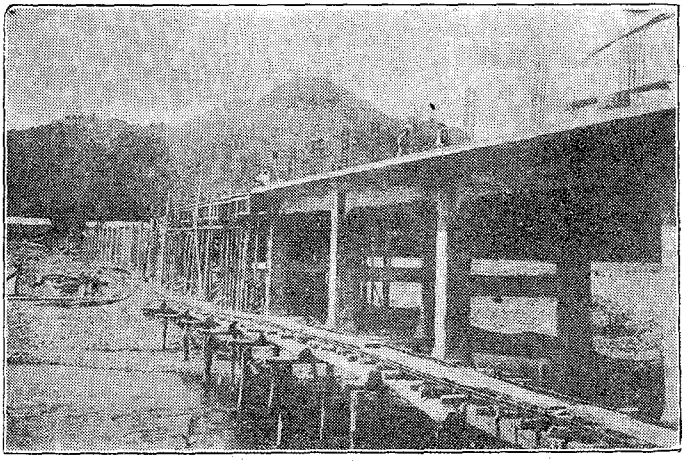
德島縣海邊郡鞆奥村大字奥浦より南方高知縣に通ずる縣道日和佐甲ノ浦線は兩縣を連絡する唯一の重要路線なるも、途中に介在する海邊川には橋梁の設備なく從來不便なる渡船を以て僅かに其の連絡を保ち居たりしが、一度出水に際會せば川止の止むなきに至り其の不便一方ならず、關係町村民は早くより架梁を希望し、且つ縣交通上經濟上よりするも必要缺くべからざるものなりしも、豫算の關係上曩に計畫されし十一大橋梁架設計畫中より取除かるゝの不幸に在りしが、勝浦橋大松川橋の竣功に相次ぎ總工費八萬九千八百七十九圓を以て本橋架橋の計畫成り、大正十三年

九月測量其の他の準備を終り同月六日起工と同時に基礎沈下工を渇水時中に終了の豫定を以て工を急ぎ一日百餘人の人夫を使役し豫定の期間中に竣功せしむるを得大正十五年一月二十日目出度其の竣功式典を擧ぐるに至りれり



海部川橋全景

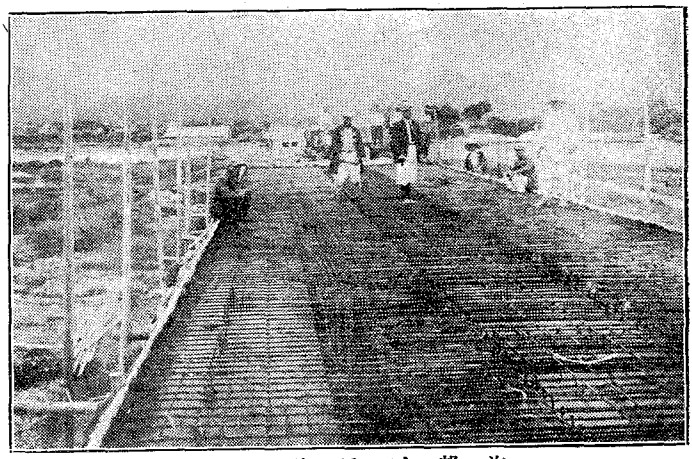
本橋は豫算の關係上最も經濟的の架橋設計を必要とせし爲擔當技術者は設計上一方ならざる苦心を重ね、現在の設計迄には幾度か他橋との比較設計に依りて研究をし決定せられたるものにして、左岸取付道路費一千百六十三圓を合せ一坪當り百八十圓の廉價を以て完成せしは蓋し



海部川橋第一工事

全國に冠たるものにして本橋の誇とする所なり。

二　橋長、幅員及使用材料



海部川橋第二工事

橋長　千百九十尺
有効幅員　十五尺
中央反り　二尺
使用材料
鐵筋一〇六噸七
木材五、五〇〇才
セメント三、〇三三樽
洗砂利二六〇立坪
洗砂　一三〇立坪

三　一般構造

鐵筋コンクリート桁反徑間五連鐵筋コンクリート三連續桁全長五十尺十一連

鐵筋コンクリート橋脚(三尺、二尺六寸角桂二本建)四基

鐵策コンクリート橋脚(二尺角桂二本建)三十三基

玉石コンクリート橋臺二基

橋面鋪裝　下埋山土上に砂利敷を施し一般道路に同じ

欄干　十尺間隔に鐵筋コンクリート柱を建て木材を以て連絡しコンクリート色ペンキ塗とす

四　基礎工

河幅廣大にして流身の溢流甚しき爲、各種の方面より愼重調査の結果實地に適應するやう三種の基礎工事を施行せり。即ち左岸東村側耕作地内は最渇水面以下二尺迄掘下げ

基礎杭を打入れ、長さ十五尺幅六尺厚さ三尺の土臺水中コンクリートを施工し此の上に二尺角鐵筋コンクリート柱二本建とし、中央流心部內には徑五尺厚さ一尺の純コンクリート井筒二個を低水面以下十四尺迄沈下せしめ、井筒內に水中コンクリートを施工し水替の上、井筒を連結する土臺コンクリートを施し二尺角の鐵筋コンクリート柱二本を建て、右岸奥浦側長徑間の部は內徑五尺厚さ一尺の純コンクリート井筒二個を低水面以下十五尺迄沈下せしめ、井筒內に水中コンクリートを施行し水替の上玉石コンクリートを塡充し、井筒上部には二個の井筒を連結する土臺コンクリートを施し、三尺、二尺六寸角の鐵筋コンクリート柱二本建とす。

五　橋體及橋臺工事

橋體の構造は道路法に於ける縣道荷重千七百貫の車輛を通過し得、尚一平方尺に付十二貫の群衆の通過に耐ゆる樣設計し、一徑間幅一尺八寸及一尺二寸五分の主桁二本を心心九尺の距離に並べ此主桁を厚さ五寸の床を以て連結し、主桁中心より外側に四尺の掛出しを考案し有効橋面幅員を擴めたり。

橋臺工事は兩橋臺共基礎杭を二尺間隔に打入れ水中基礎コンクリートを施し、橋臺軀體は玉石コンクリートを以て施工せり。

六　電燈設備

兩橋臺親柱に各二個宛、中央には等距離に四個、計八個の點燈をなし、尚電燈設備に於ける永久電燈料金五百圓は兩敷村の寄附に依り點火し得ることゝなれり。